

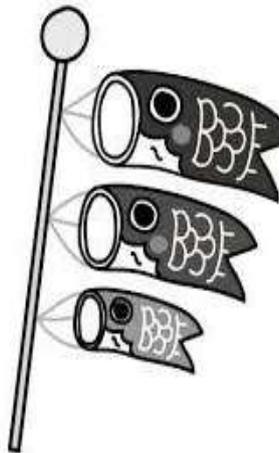


新年度 大智寺役員会

池のカキツバタやコウホネが一気に咲き始め、
見上げればほのかに紅を帯びた大山蓮華が
何とも言えない香りを漂わせています。
皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、大智寺では4月22日に新年度役員会が開かれました。
年度初めの今回の役員会では主に年間行事について
住職より説明させていただきました。

今年は、10月30日に開山500年遠忌を営みます。
そのご案内は7月に役員様から
各ご家庭に配布させていただく予定となりました。
檀信徒の皆様には今後ともお寺の護持発展に
ご協力賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

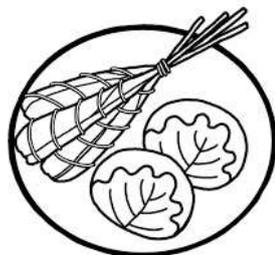


花園会本部 平成30年度行事予定

大本山妙心寺では全国の檀信徒（花園会員）
を対象に今年も様々な行事が行われます。
ご興味のある方はどうぞご参加ください。

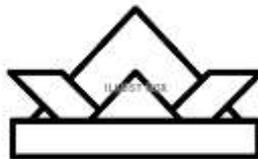
《 夏季講座 》
日時：8月25日（金）～27日（日）
場所：妙心寺・花園大学・花園会館
内容：禅学・仏教学他
申込：平成29年7月末日締切
費用：全日程コース 26,000円
1泊2日コース 17,000円
定員：150名

《 少年少女研修会 》
日時：3月24日（土）～26日（月）
場所：妙心寺・花園会館
内容：禅体験・法話・イベント
対象：小学4・5・6年生
申込：平成30年2月28日締切
費用：10,000円/人
定員：100名



お問い合わせ先
妙心寺派宗務本所 花園会本部 ☎075-463-3121
〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64

「三輪北の散策」 小冊子の完成



お寺の本堂では岐阜市が作成している「三輪の歴史文化散策マップ」配布しています
このマップはこの三輪に初めてきた方にも、
自然や伝統文化、歴史に親しめると喜ばれています。
今回、そんなマップと合わせて楽しんでいただける
「三輪北の散策」という小冊子が本堂に仲間入りしました。
この小冊子は岐阜県退職公務員連盟岐阜支部 三輪北分会の
「三輪北を知ろう会」の方々が作成したものです。
ご興味がおありの方はご自由に手にとってみてください。

大智寺だより

平成30年皐月
Vol.95

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi.ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去すべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

4月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます



「各務支考と加賀の千代女展」 ご案内

各務支考は、俳人松尾芭蕉の最期を看取った高弟の一人で、大智寺の池の傍にある獅子庵で蕉門美濃派を立ち上げ、全国に俳諧を広めた方です。



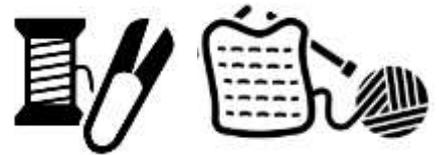
その流れは今も「獅子門」という俳諧グループに受け継がれており、獅子庵を舞台に句会や支考忌が行われ、地元の小学校でも俳句づくりが活発に取り入れられています。

さて、そんな各務支考ですが北陸俳壇の基礎を作ったことでも知られています。
たびたび北陸を訪れる中、1719年（享保4年）泊まっていた宿屋に17歳の女の子が「弟子にしてください」と訪ねてきます。



「さらば一句せよ」と、ホトトギスを題にした俳句を詠むよう求めると、女の子は俳句を夜通し言い続け、「ほととぎす郭公（ほととぎす）とて明にけり」この句でついに支考に才能を認められ、その名を一気に全国に広めることとなりました。彼女の名は、加賀の千代女といい 号は草風、法名は素園。「朝顔につるべ取られて もらい水」この代表作は御存じの方も多いのではないのでしょうか。

今回、芭蕉が「奥の細道」の旅で訪れた地、山中温泉にある「芭蕉の館」では、そんな二人を取り上げ「各務支考と加賀の千代女展」が開かれています。
（平成30年4月7日～7月末）



「古池や 蛙飛び込む 水の音」が生まれたエピソードを伝える俳論書「葛の松原」支考が千代女に送った励ましの手紙が掲載された「千代尼句」支考の著作に加えて、亡くなった支考を追善する俳諧集「文星観」支考の十三回忌に大智寺に集まり編んだ俳諧追善集「黄山両法会」など支考や千代女に関する貴重な資料が数多く展示されています。また、各務虎雄先生旧蔵の俳書もいくつかあるようです。

展示資料40点は、金沢市の俳文学愛好家の小笠泰一が収集したもので、今回この催しを大智寺にお知らせくださったのも、この方です。40点の展示資料のリストも大智寺にご郵送いただきました。展示は7月末までということですので、各句会やサークルで温泉旅行を兼ねて拝観されてみてはいかがでしょうか。



「芭蕉の館」

石川県加賀市山中温泉本町2丁目二 86-1
☎ 0761-78-1720
入館料200円（高校生以下無料）
開館時間午前9時～午後5時
休館日 水曜日
駐車場25台あり

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～

お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31 ページより

④3



「 無礼不実のなきように 己おのれを捨てて人を立て 」

仏道をならふというふは、自己をならふなり。
自己をならふといふは、自己をわするなり。
これは、正法眼蔵に記された道元禅師の有名な言葉です。

「断捨離」という言葉が2010年の流行語に選ばれ、
不要な物を断ち、捨てることで、物への執着から離れる考えが広がりました。
自分にとって大切なものは何なのか、冷静に自分を追求することで断捨離は進んでいきます。

凡人は、ここで自分にとって最も大切なものを残します。
「これだけは譲れない」「これが私の大切なもの」必ず最後に残るものがあります。
それは、家族であったり、故人の思い出の品であったり、信念やポリシーであったりします。

そんなもの捨ててしまえ、壊してしまえ、忘れてしまえ、
とらわれている心を捨てることで、自由に楽な心を我がものとする、それが仏法だと諭されています。
その自由になった心で何をするのか、仏教は人を立てて人のために生きることを旨とします。

ある人が一休禅師に「菩薩とはどんな人ですか」と問います。
「腹は立てずに、心は丸く、気は長く、自分は小さく謙虚に、人を大きく立てる。」と禅師は示します。

今更のこころ

気持ちの良いお天気が続きます。

皆様お変わりありませんか。我が家では、娘の外遊びに付き合う時間が増えてきました。キャッキヤとはしゃいで楽しんでいますが、どうもすべり台をすべるのが怖いようです。意気揚々と階段を上っていきませんが、すべる所まで来ると両脇の手すりをガンガンに握りしめて「すべれない〜」と叫んでいます(笑)

「握り込んでいる」といえば、吝(りん)嗇(しよく)を笑う落語「六日知らず」を思い出します。「一日、二日」と指を折っていく吝嗇家が6日目を勘定しようとする時、一度握った手を開くのが惜しくなってしまう、という笑い話です。転じて、手に入れたものを手放さない、固執する姿を指したりします。

すべり台の手すりを必死に握って離さない幼子の姿は、滑稽に見えるものの、何か大きなことを教えてくれているようでした。自分は何をがんじがらめに握り込んでいるのか、信念や価値観を六日知らずのように握っているけれど、手放せばすんなり人生のすべり台を楽しめるのではないか、青い空の下、ふと心に問いかけてみたりします。

禅寺ではよくお茶を飲みます。禅における茶碗は自分の頭の中です。茶碗はからっぽでなければお茶をそそぐことはできません。新茶が出回る季節、一椀のお茶と向き合うたびに「握ってはだめだ」からっぽは「なまじ」と自分の滑稽な姿を反省します。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

初夏の味 ひんやり つるん葛餅

- ① 吉野本葛50gに水250ccと砂糖大さじ2入れてよく混ぜる。
- ② 溶き残しが無いよう、漉し器で漉す。
- ③ お鍋に入れて中火で練って、全体が透明になってきたら火を弱めて2分程さらに練る。
- ④ 水に潜らせたパットなどに流し込み、氷水で冷やす。
- ⑤ 適当に切り分けて、出来上がり。



ごま豆腐を作る時のように、練りすぎてはだめで、ささっと5分くらいで作り上げてしまいます。じゃぶじゃぶ氷水に泳がせるだけで、冷蔵庫に入れたりせず、アイスクリームを添えてすぐ食べます。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

5月27日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

4月写経会 備忘録

初夏のにおいが漂い始めた4月の写経会。青葉茂れる中、大山蓮華もツツジもどんどん咲いています。さて、今回は朝から住職がタケノコを掘り、お土産にしました。米ぬかを付け忘れてしまい、ごめんなさい。気持ち良いお天気のもと、みんなで柿羊羹をいただきつつ、楽しくお話をしました。ありがとうございました。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人



第十四話 「このままではダメだ マハーカッサパさん」

お釈迦様の死の知らせをマハーカッサパさんが聞いたのは、故郷に向かってお釈迦様を追って弟子達と共に旅をしている途中のことでした。その時、弟子達は地に伏して大泣きしましたが、「あのうるさい老師がいなくなったわい、これで我らの好きなようにふるまえるわい」と小声で言う不埒な者がいました。

「このままではダメだ、せっかくのお釈迦様の教えが誤って後世に伝えられてしまう」そう思ったマハーカッサパさんは、お釈迦様の弟子を500人選抜して七葉窟に召集しました。「お釈迦様はお悟りを開かれて45年間、教えを説き続けてこられたが、それを文字として残されなかった。みんなで覚えている限りのことを後世に残そう」と呼びかけました。

全員異議なしということで、持戒第一のウパーリ尊者が戒律について述べ、次にアーナンダ尊者が教えの説法の記憶を述べました。最後に2人の記憶を全員で復唱し、仏教教団としての戒律と教え、今でいう「お経」が確立されました。このマハーカッサパさんが召集した会議を、第一結集といいます。この時できあがった「お経」を文字化したのは、もう少し後のことです。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。